■福谷２号墳（黒田庄町岡）

■野中・高ノ坪遺跡　竪穴住居跡／弥生時代（野中町）

■鹿野・宮ノ前遺跡（鹿野町）

■楠丘遺跡　縄文時代の蒸し炉（黒田庄町岡）

■緑風台窯跡　四耳壺出土状況（野村町）

■緑風台古窯陶芸館
窯跡露出展示（野村町）

ー西脇市の歴史をひもとくー

市内にのこる貴重な遺跡

人類が過去にのこした生活の痕跡や物を研究し、昔の人の生活や文化を明らかにして、現在に生かす学問を「考古学」といいます。遺跡は私たちの祖先がどのような歴史をたどってきたかを知る上で、かけがえのない文化遺産です。西脇市には旧多可郡（西脇市・多可町）唯一の前方後円墳や、県内最古の「陶器」を生産した窯跡があります。市内に多数存在する「遺跡」から、私たちが暮らす西脇市の歴史について考えてみましょう。

■問合せ　郷土資料館（播磨内陸生活文化総合センター内／☎23-5992　FAX22-5580）

■西脇市は「遺跡」の宝庫

現在、市内では約900ヵ所の遺跡が発見されています。市内で見つかった最古の遺物（道具）は、市原新池遺跡で採集された約2万年前（旧石器時代）のナイフ形石器です。

また、市内最古の生活の痕跡は楠丘遺跡での小学校の建て替え工事に伴う発掘調査で見つかった縄文時代の蒸し炉で、約9千年前のものです。

市内で一番多い遺跡の種類は古墳（3世紀中ごろ～7世紀の有力者のお墓）で、約600基発見されています。特に日本へそ公園周辺には多数の古墳があり、山頂には西脇市・多可町で唯一の前方後円墳「岡ノ山古墳」（全長57・6m）があります。

■岡ノ山古墳（県指定文化財）
岡之山山頂に築かれた全長57.6mの柄鏡式前方後円墳。前期型古墳である可能性が高いと考えられている。

■市内に多くのこる「古墳」

日本へそ公園の駐車場から岡之山美術館へと続く小道の周辺にも多数の古墳がのこされています。岡之山以外にも、やすらぎ苑内に整備されている「寺内古墳群」や、富吉南町には西脇の石舞台と呼ばれている「下山古墳」など、市内各所に多数の古墳があります。

▲西脇の石舞台と呼ばれる下山古墳

■丹波焼のルーツが西脇に

次に多い遺跡の種類は、「須恵器（すえき）」という焼き物を生産した窯跡で約80基あります。その須恵器の生産が衰える中で、最先端技術を導入して造られた窯跡が「古窯陶芸館」に露出展示されている「緑風台窯跡」です。これは平安時代末（12世紀後半）に分焔柱（ふんえんちゅう）と呼ばれる常滑焼（とこなめやき）（愛知県）などの東海地方の技術を導入した窯跡で、兵庫県で最初に陶器を生産した窯跡です。丹波焼のルーツともいわれています。

■多くの山城や城館

西脇市は播磨北部に位置し、丹波・但馬と国境を接する山間部であることから、多くの中世の山城や城館がのこっています。中でも、水尾城は全面的な発掘調査が行われ、典型的な戦国期の山城として知られています。その他、比延前田遺跡は比延小学校の建て替え工事に伴う発掘調査で、城館を取り囲む太鼓塀跡や堀が見つかりました。

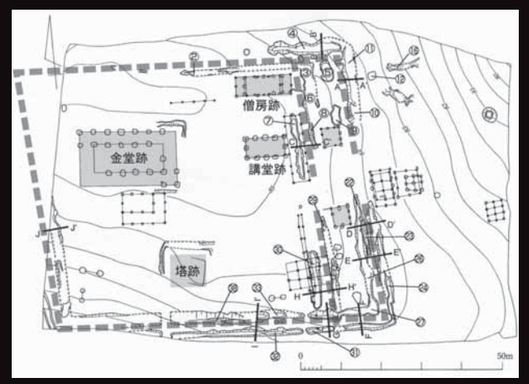
▲戦国時代の山城「水尾城跡」

奈良時代（８世紀初頭）の古代寺院跡

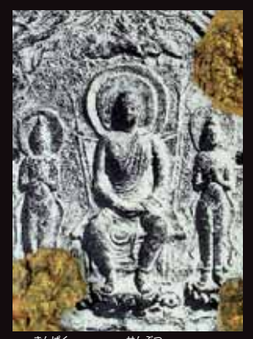
野村廃寺

茜が丘複合施設みらいえの西側には、丘陵に建立された奈良時代（８世紀初頭）の古代寺院跡「野村廃寺」があります。発掘調査の結果、約65m四方の塀の内部に、金堂（本堂）跡、塔跡、僧房跡、講堂跡と考えられる建物跡（伽藍（がらん））などが発見されました。なお、八坂町にも同時代の「八坂廃寺」があり、古代瓦が出土しています。

▲野村廃寺の全景（現在のみらいえ近く）



▲野村廃寺　平面図


▲金箔押しの塼仏（きんぱく　せんぶつ）

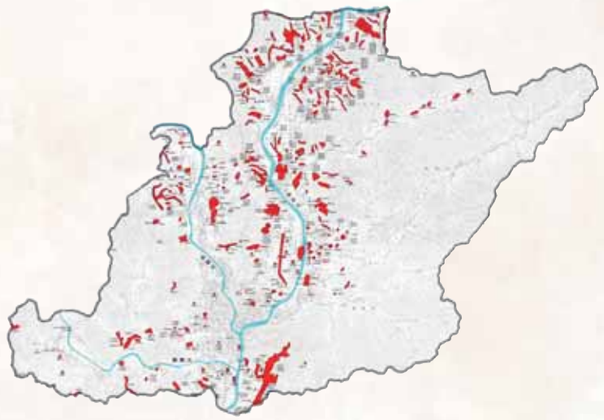
▲堀立建物跡（講堂跡）

先人の生活の痕跡を記録する 遺跡発掘調査

■遺跡（埋蔵文化財）とは

土地に埋まっている文化財のことを「埋蔵文化財」といいます。集落跡や古墳、城跡などさまざまな種別がありますが、一般的には「遺跡」と呼ばれています。

遺跡には建物跡や井戸跡などの生活の痕跡（遺構）や、土器や石器など使われていた道具（遺物）が埋もれており、その存在が確認されている場所を「周知の埋蔵文化財包蔵地」といいます。



▲西脇市内の遺跡分布地図（赤が遺跡の範囲）

■どうして土に埋まっている遺跡の場所が分かるの？

遺跡を探すときは、まず分布調査（昔の人が生活をしていたと考えられる地形を歩く調査）をします。現地で地面を見つめながら歩くと、場所によっては昔の土器の破片などが落ちていることがあります。そういった場所では、自然の地形と異なる起伏などが確認できることがあり、過去の土地の改変を知ることができます。また土器を採集することで、その形や種類から、その地下にどんな時代の遺跡が存在しているのか、推測することができます。

土器などが多く認められ、その下に遺跡がある可能性が高い区域を遺跡または埋蔵文化財包蔵地として台帳に登載します。これらのデータをもとに、地道に遺跡の範囲を調べるための「発掘調査」を行い、遺跡の位置や種別の把握に努めています。

■近年の市内での発掘調査

JR鍛冶屋線跡地の市原羽安線道路改良工事に伴い、平成29年度～30年度に発掘調査を行いました。その結果、弥生時代後期、奈良時代、室町時代の遺跡が見つかり、この地域の生活の一端が明らかになりました。

調査で見つかった建物跡などの「遺構」は、写真撮影や測量（図化）を行い正確な記録を残して、出土した土器は郷土資料館へ持ち帰って整理しています。

▲発掘調査の様子

▲土器検出の様子

■発掘調査の成果

出土した土器などは洗浄や復元作業を行い、その形状を記録します。整理作業は、現地調査以上に時間を費やす地道な作業です。整理を終えると遺構図や写真などとともに、その調査成果をまとめた「発掘調査報告書」を刊行し、その成果を公表します。また、資料館で展示資料として活用します。

これらの積み重ねによって、西脇市の歴史が少しずつひもとかれていきます。

▲発掘調査報告書

▲整理作業の様子

遺跡を破壊しないために

遺跡は調査が行われない限り、その内容や規模などが明らかとなりません。工事などで一度破壊されると永遠に失われてしまう恐れがあります。貴重な遺跡を後世にのこすため、可能な限りは現状のまま土の中で保存・保護されるべきです。

そのため、住宅などの開発事業が計画された場合、保存に向けた事前調整を行います。調整不可の場合には、工事掘削によって破壊される範囲の発掘調査を行い、その遺跡の発掘調査結果の記録を後世にのこす必要があります。

1．開発などを行う場所が「埋蔵文化財包蔵地」でないかの事前確認をお願いします。

建築・土木工事を行う場合は、計画段階の早い時期に、その場所が遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の範囲でないかを郷土資料館（☎23-5992 FAX22-5580）に確認してください。照会は、窓口やファックスで随時受け付けています。

2．遺跡内である場合には事前に文化財保護法に基づく届け出を提出する必要があります。

詳細は、郷土資料館へお問い合わせください。

西脇市郷土資料館

～郷土の織物とくらしの資料館～

市内で出土した土器などを展示しています。ぜひ、お立ち寄りください。

資料館は昭和59年４月に開館しました。収集資料は約３万７千点を数え、その所蔵量は県下でも有数です。館内には、市内で出土した土器などが展示されています。

野村廃寺から出土した金箔押しの塼仏や、墨で文字を書いた土器のほか、ハゼノ木遺跡で出土した腐らず残っていた奈良時代の柱など、さまざまな考古資料を展示しています。

その他、農機具をはじめとする民具類や播州織の歴史を常設展示しています。館内にはガチャマン景気で栄えた昭和30年代ごろの織物工場の様子も再現しています。

ぜひ、西脇市の歴史や文化財を体感しに、資料館へお越しください。

郷土資料館　菅澤敏弘主任

西脇市には長い歴史があり、私たちの先祖が生活を営んできました。資料館では、文化財の保存だけでなく、その歴史を皆さんに知っていただくよう活動に取り組んでいます。

ご要望がありましたら、展示解説も行います。

■問合せ

郷土資料館（播磨内陸生活文化総合センター内／☎23-5992　FAX22-5580）

開館時間：午前９時～午後５時

入館料：無料

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）